

令和 3 年度
袖ヶ浦市立図書館サービス状況
点検・評価

令和 4 年 8 月
袖ヶ浦市立中央図書館

◎令和3年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価について

“図書館はサービス水準の向上を図るため、サービスの実施状況について点検及び評価を行う際の評価指標及び目標年度を令和7年度とする数値目標を設定し、その達成状況等について、年度ごとに点検及び評価を行います。”

（「袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画」3－5サービス評価指標 による）

図書館法は、第7条の3及び第7条の4において、図書館が自らの運営状況について評価を行い、その結果に基づき、運営の改善のための必要な措置を講じ、運営状況に関する情報を地域住民等へ積極的に提供するよう努めなければならないことを規定しています。

袖ヶ浦市立図書館は、平成23年度に袖ヶ浦市第3次図書館サービス網計画を策定し、その後、地域住民の代表である図書館協議会の協力を得ながら、図書館サービスの実施状況について年度ごとに点検・評価を行い、公表してきました。

第3次図書館サービス網計画の計画期間は令和2年度で満了し、袖ヶ浦市立図書館は、令和3年度を初年度とする袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画を新たに策定しました。今回は、第4次図書館サービス網計画の策定後初めての点検・評価となります。

なお、第4次図書館サービス網計画の計画期間は、令和3年度から令和12年度までの10年ですが、図書館を取り巻く環境の変化等に柔軟に対応するため、計画期間を前期と後期の各5年に分け、サービス評価指標及び参考指標と数値目標については、前期の最終年度である令和7年度を目標年次としています。

◎令和3年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価の評価方法

袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画において、数値目標を設定した指標は、サービス内容(1)に対応するサービス評価指標(①～⑪)と、サービス内容(2)(3)に対応する参考指標(⑫～⑳)で構成されています。これらの指標のうち、参考指標については主に活動指標(※1)であることから評価の対象とせず、成果指標(※2)が主である①～⑪のサービス評価指標の達成度に基づいて評価するものとししました。

なお、袖ヶ浦市立図書館は、緊急事態宣言(令和3年8月2日～9月30日)及びまん延防止重点措置(令和3年4月20日～7月11日、令和4年1月21日～3月21日)の適用期間も、新型コロナウイルスの感染予防対策を講じながら開館を継続し、図書館サービスの遂行に努めましたが、感染予防対策を講じることが困難な一部のサービスや事業については停止や制限等の措置を取るなど、図書館運営に対する新型コロナウイルスの影響は未だに大きいことを考慮し、令和3年度の点検・評価については以下の方法で行いました。

※1 活動指標：目標を達成するための手段(事業の進め方・やり方)の大きさを表す指標。(アウトプット指標)

※2 成果指標：事務事業を行うことによって対象にどれだけの効果を与えることができたかを表す指標。(アウトカム指標)

1 点検

令和3年度に行った図書館サービスについて、第4次図書館サービス網計画のサービス内容(1)(2)(3)ごとの取組状況シートを作成し、「取組内容」「指標の実績値と達成率」「成果・効果」「課題」「今後の対応」を記載しました。

2 図書館協議会からの意見

地域住民の代表である図書館協議会委員からの意見をサービス内容ごとに伺い、サービス内容(1)(2)(3)のシートに「図書館協議会からの意見」としてまとめました。

3 評価

(1) サービス評価指標①～⑪の前期計画目標値(目標年次：令和7年度)に対する達成度を4段階で表記しました。

◎：目標値に対して100%以上の達成率
○：目標値に対して80%以上100%未満の達成率
△：目標値に対して60%以上80%未満の達成率
×：目標値に対して60%未満の達成率
※ただし、令和3年度の取組において、新型コロナウイルス感染症拡大により、事業の実施に多大な影響があり、施策指標の数値が目標値を達成しなかった場合は、(○)、(△)、(×)と表記。

(2) サービス評価指標①～⑪の達成度について、◎を30点、○を20点、△を10点、×を0点として採点し、平均値を全体評価としてA・B・Cの3段階で表記しました。

全体評価区分
A：施策の成果が十分に図られている。24点以上(80%以上)
B：施策の効果が図られ、一定の成果があった。
18点以上24点未満(60%以上80%未満)
C：施策の成果が十分に図られているとは言えず改善を要する。
18点未満(60%未満)
※ただし、令和3年度の取組において、新型コロナウイルス感染症拡大により、事業の実施に多大な影響があったものは、(A)、(B)、(C)と表記。

◎令和3年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価結果

袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画に定めるサービス評価指標の、令和3年度における達成度は以下のとおりでした。全体評価は「B」となります。

令和3年度達成度点数合計 200 点 ÷ 項目数 10 = 平均値 20 点 ⇒ 全体評価 : B

サービス評価指標	前期計画 目標値 (R7)	実績値 (R3)	達成率	達成度	点数
①市民1人当たりの所蔵図書冊数	11.3 冊	10.9 冊	98.5%	○	20 点
②袖ヶ浦市関係郷土行政資料の年間受入冊数	300 冊	377 冊	125.7%	◎	30 点
③年間個人貸出利用者数	149,000 人	119,228 人	80.0%	○	20 点
④年間個人貸出資料点数	550,000 点	503,871 点	91.6%	○	20 点
⑤市民1人当たりの年間個人貸出資料点数	8.5 点	7.7 点	90.6%	○	20 点
⑥年間市民新規登録者数	1,400 人	1,051 人	75.1%	△	10 点
⑦市民登録率	42%	38.5%	91.7%	○	20 点
⑧年間リクエスト処理件数	55,000 件	65,604 件	119.3%	◎	30 点
⑨年間レファレンス処理件数	1,200 件	656 件	54.7%	×	0 点
⑩1か月当たりのウェブ予約受付件数	4,000 件	4,070 件	101.8%	◎	30 点
⑪来館者満足度	80%	偶数年度実施			
全 体 評 価			B	合計点	200 点
				平均点	20 点

サービス内容（１）取組状況シート「資料及び情報の収集、提供等」

（評価については前ページに掲載）

取組内容（「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続）

①図書館資料の収集

・「袖ヶ浦市立図書館資料収集規程」及び「袖ヶ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、新刊図書を中心に購入し、全館の開架資料 313,820 冊に対して 12,180 冊を受入（うち購入 10,954 冊）し、開架書架の約 3.9%を更新した。

・寄贈図書の受入れを積極的に行い、1,199 冊（一般書 1,187 冊、児童書 12 冊）を受け入れた。
☆市への寄附金により児童書を 231 冊購入し、調べ学習に役立つ図書を中心に児童書を充実させた。

☆行政資料については年度当初に市役所内に広く寄贈を呼び掛け、データのみで公表した資料は図書館で製本して受け入れたほか、令和 3 年度からは電子資料としても保存することとした。図書館で製本した袖ヶ浦市関係郷土行政資料 51 タイトル・118 冊。

☆図書館で役目を終えて不用となった除籍資料の再活用を図るため、「本・雑誌リユース・デー」を開催した。

市内学校・子育て支援施設・高齢者施設等事前配布（12/2,3）44 団体 2,060 冊配布
本・雑誌リユース・デー（市民対象）（12/5,7,8）365 人 約 6,500 冊配布

②貸出サービス

・幅広い年代に対して図書館の豊富な資料を紹介する取組として、特設コーナー等において市民の生活課題の解決に資するテーマを取り上げて積極的に提供した。

・9月10日～16日の自殺予防週間にあわせ、中央図書館、長浦おかのうえ図書館、平川図書館において「自殺予防週間関連ミニコーナー」を設置し、多くの貸出があった。

☆特設コーナーとは別に、長浦おかのうえ図書館のカウンター前で7、8、10月に、「お菓子の本」「夏を楽しもう」「災害に備える」「シニアライフを楽しむ」というテーマでおすすめ図書の紹介コーナーを設置したほか、千葉県民の日（6月15日）にあわせ、郷土資料を展示し、多くの貸出があった。

・図書館ホームページに図書館員の個性を生かしたテーマで「図書館員のおすすめ」を掲載した。

・新成人に送る図書館おすすめ20冊の図書リストを改訂して、成人式で新成人に配布した。

・こどもの読書週間記念行事、夏のトショロ月間、えほんのふくぶくろなど、貸出増につながる事業や企画を年間を通じて推進した。また、秋のトショロ月間では、期間中の貸出冊数に応じ年代別の順位などが確認できる「秋の読書マラソン大会」を新たに開催し読書意欲の向上を図った。

・長浦・平川における児童書の利用促進を図り、対象年齢別に「すぐに借りて帰りたい人のためのおすすめ絵本セット」を作成した。

・中央図書館の展示コーナーでは「～袖ヶ浦市市制施行30周年記念～袖ヶ浦市のあゆみ」で、こどもの読書週間記念行事スタンプラリーと連携したクイズを行ったほか、展示に関連した貸出用の図書を併せて紹介した。

☆図書館を直接利用しない市民にも図書館の資料を広く提供するため、団体貸出サービスについて、子育て支援施設や高齢者施設等へ利用案内を送付して周知を図った。

③レファレンス・情報提供サービス

- ・市民の課題解決を支援するため、インターネットやデータベース等も活用し、利用者の求めに応じて資料及び情報の提供・紹介等を行うレファレンスサービスを推進した。
 - ・袖ヶ浦市立図書館の所蔵資料では解決できないレファレンスについて、国立国会図書館、県立図書館へのレファレンス依頼を行い、利用者の課題解決に努めた。
 - ・パスファインダー（※1）は大人向けに「障がい」と「防災」の改訂版の2種類、児童向けには「世界の国々」を作成し、図書館のホームページに掲載したほか、ツイッターでも広報し、全館で配布した。
- ★月替わりで共通のテーマの本を職員が選んで紹介する特設コーナーで、SDGsの目標に対応したテーマを積極的に取り上げ、17の目標のうち6つの目標について紹介したほか、webOPAC（※2）でも、SDGsに関するおすすめ図書を一般書・児童書別に掲載した。
- ★読書普及事業においても、8月～9月の資料展示「ムーミンと北欧」において、北欧について紹介する中でSDGsにも触れる内容としたほか、秋のトショロ月間の中庭イベント「カレンダーを使って封筒づくり～SDGsエコについて考えよう～」において、SDGsに関する資料を会場内で展示するなど、SDGsについての啓発を図った。

サービス評価指標	前期計画目標値	R3 実績値	達成度
①市民1人当たりの所蔵図書冊数	11.3冊	10.9冊	○
②袖ヶ浦市関係郷土行政資料の年間受入冊数	300冊	377冊	◎
③年間個人貸出利用者数	149,000人	119,228人	○
④年間個人貸出資料点数	550,000点	503,871点	○
⑤市民1人当たりの年間個人貸出資料点数	8.5点	7.7点	○
⑥年間市民新規登録者数	1,400人	1,051人	△
⑦市民登録率	42%	38.5%	○
⑧年間リクエスト処理件数	55,000件	65,604件	◎
⑨年間レファレンス処理件数	1,200件	656件	×
⑩1か月当たりのウェブ予約受付件数	4,000件	4070.0件	◎
⑪来館者満足度	80%	偶数年度実施	

成果・効果

- ・特設コーナーだけでなく、webOPACや読書普及事業など様々な機会を通じて、図書館職員の選んだおすすめ図書を紹介するなど、利用増につながる取組を積極的に行ったことにより、個人貸出資料点数はコロナ禍前の令和元年度の実績近くまで回復してきた。
- ・SDGsに関する図書の積極的な収集と提供に努めるとともに、特設コーナーや読書普及事業で取り上げてSDGsの周知と活用を図った結果、関連図書の貸出やSDGsの理解につながることができた。
- ・コロナ禍でもウェブ上で所蔵資料の予約や未所蔵図書のリクエストを受け付けたことにより、リクエスト処理件数、ウェブ予約受付件数が増加した。

課題

- ・コロナ禍で利用者の来館頻度が減ったり滞在時間が短くなる等の影響により、個人貸出利用者数や新規登録者数、レファレンス処理件数は、コロナ禍前の令和元年度の水準まで回復していない。特にレファレンス処理件数は、カウンターやフロアワークで利用者からレファレンスを引き出す機会が大幅に減少しており、新たなPR方法等を考える必要がある。
- ・児童書の貸出は増えているものの、一般書の貸出が減少しており、図書館の利用機会が少なくなる青年層や勤労世代に対してもアプローチをしていく必要がある。
- ・公民館図書室の専任職員の配置がこれまでの週6日から週3日となり、専任職員が不在の日は公民館図書室の利用が減少しているため、在室日の利用を促進する取組が必要である。
- ・作成したパスファインダーを館内のレファレンスコーナー等に設置しているが、あまり活用されていないので、館外での配布など必要とする人の手に届きやすい配布方法を考える必要がある。

今後の対応

- ・コロナ禍で図書館へ来館する機会が減っている保育所や幼稚園等に対して、新規登録の働きかけを行う。
- ・図書館を利用する機会が少ない10代後半から20代を主な対象に、新たなサービスとして来館しなくても利用できる電子図書館サービスを試行する。
- ・ツイッターやホームページ、図書館だより等を通じてレファレンスの事例紹介を行い、レファレンスサービスの周知を図るとともに、感染状況を考慮しながら、利用者への声掛けなどレファレンスにつながるカウンター等での取組を検討する。
- ・公民館図書室に専任職員が配置されている日を積極的に周知し、在室日の利用への誘導を図るとともに、こどもの読書週間記念行事や夏・秋のトショロ月間などで公民館図書室の利用増につながる取組を行う。
- ・作成したパスファインダーを図書館内だけでなく市役所ロビーや関係機関へ配布し、活用につなげる。

図書館協議会の意見

- ・所蔵数・行政資料収集数等適切に実施されており、資料予算の執行や適切な除籍が計画的に行われていることがうかがわれます。今年度の重点施策であるSDGs関連では、直接的な資料だけでなく、他事業とコラボすることで利用者へSDGsの幅広い視点を与えられたと思います。今後も視野を広げるために役立つ図書館を目指して取り組んでいただきたい。
- ・公民館図書室に関しては、引き続き専任職員の在室日の利用を促すとともに、専任職員不在日の運営について、図書館としてどのような方法が考えられるか検討していただきたい。
- ・袖ヶ浦駅海側の新興住宅地の人口増を踏まえ、図書館利用増への対応を図っていただきたい。
- ・年間レファレンス処理件数が目標に対する達成率54.6%とコロナ禍前よりも大幅に減少しており、コロナ禍による来館者減少や滞在時間の短縮以外の要因についても研究し、課題解決の支援に取り組んでいただきたい。

※1 パスファインダー：あるテーマに関する資料や情報、調べ方を紹介する情報資料。

※2 webOPAC：インターネットを利用して図書館資料の検索ができるシステム。

サービス内容（２）取組状況シート「利用者に応じたサービス」

参考指標

取組内容（「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続）

①乳幼児と保護者に対するサービス

☆家庭における読書活動を推進するため、市の４か月児教室だけでなく、新たに中央図書館においてもブックスタートを開始した。４か月児教室が中止となった期間は、ブックスタートパックの受け渡しを、図書館だけでなく、保健センターで開催されるすこやか相談等でも行った。ブックスタートパックの配布率 50.5%。

- ・健康推進課で新生児訪問時に配布しているブックスタートのチラシを改訂し、新生児訪問のほかに、窓口で１歳未満の対象の子どもがいる転入者にチラシ配布を依頼した。

☆感染予防対策を講じることが困難な、０歳からの乳幼児を対象とする「わらべうたであそぼう」、「すきすき絵本タイム」と２～３歳児を対象とする「えほんのへや」は、年間を通じて開催することができなかった。代替りの事業として、マスク着用できることを条件に、３歳以上の児童を対象とする「えほんのひろば」を２回開催し、絵本の読み聞かせや手遊び等を行った。また、おはなし会に代えて０～３歳向けに「今月のおすすめの絵本」のポスターを全館に掲示するとともに、「季節のおすすめの絵本（月ごとに４冊）」を紹介するリストを作成して全館で配布した。

- ・感染予防対策を講じながら、幼稚園や保育所、子育て支援施設等への出張おはなし会を行った。
- ・対象年齢別のおすすめ図書リストを発行したほか、児童室で季節にあわせた様々なテーマでおすすめ図書を展示した。

②児童・青少年に対するサービス

- ・感染予防対策を講じながら、館内おはなし会を定期的に開催したほか、小学校・学童保育等への出張おはなし会を実施した。おはなし会等実施回数合計 267 回。
- ・袖ヶ浦高校図書委員と協働でクリスマスおはなし会を企画・開催した。
- ・年齢別おすすめ図書リストを２回作成し、館内だけでなく学校や保育所等へ配布した。各館の児童室では、テーマを決めた定期的なおすすめ図書の紹介展示を行った。
- ・調べ学習や読書感想文、自由研究についての問い合わせに多数対応したほか、おすすめ図書リストやパスファインダーを作成し、その関連図書を集めたコーナーを設置するなど積極的に支援した。

☆青少年の図書利用を促進するため、中学生向けの「ジュニアコーナー」や高校生向けの「青少年コーナー」の充実を図ったほか、新たに中学生・高校生向けに「イチオシ本のPOPを書こう！」を企画し、284 人の参加があった。

- ・子どもが読書に関心を持つきっかけとなるイベントとして、４月から５月にかけてこどもの読書週間記念行事を開催し、スタンプラリーに 861 人が参加するなど、児童書の貸出増につながった。

☆夏のトシヨロ月間では、子どもの利用につながるように、子どもに親しみのあるお題にちなんだ本を集めてくるイベント「お題の本 DE BINGO!!」（平川）を行った。

☆秋のトシヨロ月間では、子どもたちと本との新しい出会いにつながるように、「宝さがし」（根形・平岡）や「本のおみくじ」（中央・平川）など、絵本を紹介する取組を行った。

③成人に対するサービス

- ・月替わりで共通のテーマの本を職員が選んで紹介する特設コーナーにおいて、「新しいことを始めよう」、「共に生きる」、「平和を考える」、「さまざまな仕事 みんなに感謝！」「おうち時間を満喫する」「若い人に贈る 図書館がすすめる本」「すこやかに暮らす」などのテーマを取り上げ、図書館のホームページにもリストを掲載し、ツイッターでも広報した。

☆会議資料の作り方、起業、転職、経営に関する本など、働く上で役立つ資料を積極的に収集し、さらに、図書館のwebOPACの「図書館おすすめ」のリストに「ビジネス書（2021年発行）」を掲載し、図書館で購入した新刊ビジネス書の紹介に努めた。

④高齢者に対するサービス

- ・地域の高齢化が進行する中で、市民の関心が高く、常に新しい情報が求められる社会福祉と医学関連の図書を重点的に収集した。社会福祉の分野の図書（一般書）を全館で160冊収集し、同分野の全開架図書2,163冊の約7.4%を更新したほか、医学・薬学の分野の図書を全館で624冊収集し、同分野の全開架図書10,118冊の約6.2%を更新した。
- ・高齢者が利用しやすい資料として、大活字本146冊（64タイトル）や朗読CD30点（26タイトル）を購入した。

☆図書館webOPACの「図書館おすすめ」に「大活字本リスト＞小説・2021年から発行」のリストを追加し、資料の紹介に努めた。

☆大活字本と朗読CDの案内を1枚にまとめたポスターを作成し、全館に掲示し、ツイッターでも広報した。また、中央・長浦・平川の大活字本コーナーでは朗読CDの案内、CDコーナーには大活字本の案内を掲示し、相乗効果を図った。

- ・秋のトシヨロ月間の期間には、長浦おかのうえ図書館で「人生100年時代のマネープラン」をテーマに「暮らしに役立つ生活講座」を開催し、好評を得た。これに関連して、カウンター前で「シニアライフを楽しむ」というテーマでおすすめ図書の紹介展示を行った。

⑤図書館利用に障がいのある人に対するサービス

- ・心身の障がいや長期のケガ、病気等により図書館への来館が困難な市民を対象に、依頼に応じて図書館資料を届ける宅配サービスを実施した。宅配による貸出116冊。
- ・宅配サービスの周知を図り、民生委員に依頼して昭和地区でチラシの配布を行った。

★学習障がい等により読みに苦手さのある子どもへ読書支援を行うため、図書流通システムを介してデイジー図書（※1）を提供できるように、実施に必要な要領等を作成し、学校司書の研修会で説明した。

⑥多文化サービス

- ・外国語（英語）の図書24冊（一般書16冊、児童書8冊）を購入した。

☆ユニバーサルデザインに配慮したピクトグラム（絵文字）による館内表示を、中央図書館、

平川図書館の一般書コーナーで行った。(長浦おかのうえ図書館は令和2年度に実施済み。)

★日本語を母語としない子どもへの読書支援を行うため、図書流通システムを介して多言語対応の電子絵本(※2)を提供できるように、実施に必要な要領等を作成し、学校司書の研修会で説明した。

参 考 指 標	前期計画目標値	R3 実績値	達成度
⑫ブックスタートの年間配布率	80%	50.5%	(△)
⑬こどもの読書週間記念行事の参加者数	900 人	861 人	○
⑭おはなし会の年間実施回数	480 回	267 回	(×)
⑮子ども向けお薦め本リストの年間発行回数	6 回	8 回	◎
⑯成人向けお薦め本コーナーの年間企画数	12 件	20 件	◎
⑰大活字本の年間貸出冊数	4,000 冊	3,916 冊	○
⑱宅配による年間貸出資料点数	330 点	116 点	×

成果・効果

- ・コロナ禍で「わらべうたであそぼう」など乳幼児向け事業の多くが年間を通じて実施できなかったが、「今月のおすすめの絵本4冊」の紹介など、乳幼児の読書につながる取組を積極的に行ったほか、ブックスタートを4か月児教室だけでなく図書館でも開始し、1歳未満の乳児とその保護者に絵本の読み聞かせの機会を提供することができた。
- ・新たに「中学生・高校生向け企画おすすめ本のPOPを書こう!」を実施したところ、中学校3校、高校1校からの協力を得られ、応募された作品を中央・長浦・平川・根形で掲示することで、中学生・高校生が読書や図書館に関心を持ってもらうきっかけづくりとすることができた。
- ・ビジネス関係の新着図書の紹介など、成人向けに幅広い分野の本の紹介を館内展示やウェブ上で行うことができた。
- ・高齢者向けの資料である大活字本や朗読CDについて、新しくポスターを作成したり図書館のwebOPACに掲載し、周知することができた。

課題

- ・コロナ禍によって中止した乳幼児向けの事業「わらべうたであそぼう(0歳～)」「すきすき絵本タイム」(0歳～)「えほんのへや(2・3歳)」はマスクがつけられないなど感染対策が難しい年齢層のため、2年以上乳幼児の読書への働きかけができない状況が続いており、感染症対策を講じた上で事業再開を検討する必要がある。
- ・宅配サービスについては、新型コロナウイルスの影響と利用者個々の事情により大幅に利用が減少したため、サービスを必要とする人に対する効果的な周知方法を考える必要がある。
- ・読みに苦手さのある子ども、日本語を母語としない子どもを対象とする読書支援サービスの実施要領の作成に検討を要し、サービスの開始が遅れてしまったため、学校への周知を速やかに図っていく必要がある。

今後の対応

- ・新型コロナウイルスの感染状況等を注視しながら、乳幼児向けの事業の再開のタイミングを図る。
- ・障がい者サービスについて、さらに関係機関等への効果的な周知を図るとともに、利用登録している個々人の状況に応じたきめ細かい対応を行う。
- ・読みに苦手さのある子ども、日本語を母語としない子どもを対象とする読書支援サービスについて、学校司書の研修会等の機会を通じて、学校への周知を図る。

図書館協議会の意見

- ・子育てによる虐待防止の観点からも、絵本を通して子育て中の親子に積極的にかかわっていただく機会を多く設定していただけることは大変有意義であると考えます。子どもとのかかわり方に戸惑いを覚える保護者も絵本というツールがあると関わるができるという場合もあり、母子保健担当との緊密な連携を期待します。
- ・障がい者、誰もが利用できる図書館を目指してマルチダイジー図書の導入、サピエ図書館の利用など手段が広がったことは望ましいです。市民への周知を行い、広く利用してもらえよう努めていただきたい。
- ・館内表示のユニバーサル化は、外国人だけでなく「いつでも・どこでも・だれにでも」に近づける有効な手段だと思えます。3つの図書館すべてに設置したことを評価します。

※1 **ダイジー図書**：ダイジー(DAISY)はDigital Accessible Information Systemの略。視覚障がいなどにより活字の読みが困難な人のために製作されるデジタル図書の国際標準規格で、CD-R 1枚に約60時間の録音ができるほか、章や見出し、ページごとに聞きたい場所へ移動することができる等の機能がある。音声データと目次・見出し情報等を記録した「音声ダイジー」、文字や画像が含まれている「マルチメディアダイジー」などがあり、専用の再生機又は再生用ソフトウェアをダウンロードしたパソコンで聞くことができる。

※2 **多言語対応の電子絵本**：袖ヶ浦市立図書館で提供するのは「多言語絵本の会 RAINBOW」から寄贈された電子図書(CD-R)で、日本語と外国語による音声読み上げ、読んでいるところが画面上でハイライトされるなどダイジー図書と同様の機能があるが、専用の再生ソフトを必要とせずパソコンで視聴できる。

サービス内容（3）取組状況シート「多様な学習機会の提供」

参考指標

取組内容（「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続）

① 学校との連携

・学校の読書や調べ学習を支援するため、市内の小中学校からの依頼に応じて図書流通システム等により1,828冊の団体貸出を行ったほか、学校貸出用利用券により開架資料975冊を貸出した。学校図書館への貸出冊数合計2,803冊。

☆市内の小中学校に加え、今年度は初めて幼稚園とも連携し、園児、児童生徒のおすすめ図書や作品を図書館で展示した。中央図書館では、昭和小学校（1年生、2年生、6年生）と奈良輪小学校（3年生、4年生、5年生）の作品展示、昭和中学校図書委員のおすすめ図書展示、昭和中3年生の作品展示を行い、長浦おかのうえ図書館では蔵波中学校美術部の作品展示を行ったほか、平川図書館で中川幼稚園の園児の作品展示を行った。

★中高生に読書に興味を持ってもらうために、市内の中学校・高校と連携して「イチオシ本のPOPを書こう！」を実施し、4校・284名の参加があった。（再掲）

・昭和小2年生、蔵波小2年生のまち探検の受け入れを行った。

② 関係機関との連携

・ファミリーサポートセンターの主催事業や、市民会館・平川公民館合同開催の幼児家庭教育学級において読み聞かせ講座「絵本の読み聞かせについて」を行った際に図書館から講師を派遣した。

☆平岡公民館で高齢者学級で映画鑑賞を行った際に、初めての取組として、図書館から映画会ボランティアを派遣して前説を行った。

・郷土博物館との連携事業として中央図書館で「～郷土博物館連携展示～海と私たち」の資料展示を行ったほか、講演会の会場となった長浦おかのうえ図書館で「東京湾と魚の本」と題して関連図書を紹介展示した。

・市役所の関係課からの問い合わせに応じて、業務に必要な資料や情報を調査し、所蔵資料だけでなく県内外の他自治体図書館から借用するなどして提供した。

・男女共同参画週間（6月23日～29日）の時期に「図書館おすすめ男女共同参画社会関連図書リスト」を作成し、図書館だけでなく市民協働推進課へ配布した。また、依頼に応じて男女共同参画情報誌「パートナー」で紹介する本の選定と解題を作成した。

☆ちば南部地域若者サポートステーションにおける職場体験の一環として、本・雑誌リユース・デーの準備作業、蔵書点検作業への活動機会を提供した。蔵書点検では、生涯学習課を通じてユースボランティアの受入も初めて行い、ボランティアの協力を得ることで図書館としても作業の効率化を図ることができた。

③ ボランティア活動等の推進

☆おはなし会ボランティア養成講座初級編（全5回）を開催し、20名の受講者にボランティア登録の呼びかけを行い、14名が令和4年度より新規にボランティア登録した。

・おはなし会やブックスタート、映画会、資料展示、工作など市民ボランティアとの連携によ

り、読書普及事業を推進した。

- ・夏のトショロ月間や秋のトショロ月間等の大規模イベントにおいて、社会教育推進員の企画・立案による催しを実施した。
- ・秋のトショロ月間では図書館サークルによる成果発表の場を設け、俳句・短歌作品の展示や大人のためのお話し会を行った。展示スペース付近に句集及び短歌に関する資料を集め、サークル活動に興味を持ってもらうきっかけづくりと資料の貸出を図った。

④図書館からの情報発信

- ・図書館が広く市民に活用されるために、市及び図書館の広報紙やホームページ、ツイッターやメールマガジン等様々な媒体を活用して、図書館の資料や読書普及事業等について積極的な情報発信を行った。

☆広報そでがうらのリニューアルに伴い、令和4年1月号から図書館のおすすめ図書のコーナーに図書館職員による解題と表紙画像を付けることで、より内容を充実させることができた。

☆ホームページの「特設コーナー」「おすすめ図書」「新刊図書」など図書館資料に関するコンテンツを更新した際に、画像付きでホームページのお知らせに掲載し、ツイッターも活用して周知を図った。また、読書普及事業の実施状況についてもフォトニュースやツイッターを通じて積極的にPRしたほか、図書館登録グループ・サークルの紹介ページの新規作成、リンク集への新たなリンク先追加など、ホームページの内容を充実させた。

参 考 指 標	前期計画目標値	R3 実績値	達成度
⑱学校図書館への年間貸出図書冊数	3,500 冊	2,803 冊	○
⑳学校との連携による図書館内掲示や催し物の年間事業数	7 回	11 回	◎
㉑公民館・博物館等関係機関と連携した年間事業数	7 件	11 件	◎
㉒図書館ボランティア研修会等の年間実施回数	25 回	27 回	◎

成果・効果

- ・児童生徒の作品展示など学校との連携を積極的に行い、子どもたちが成果を発表し保護者等が見る機会を提供することができた。
- ・公民館や郷土博物館、市長部局と連携した取組を推進し、事業を充実させることができた。
- ・図書館ボランティアや社会教育推進員との協働により、図書館の運営や読書普及事業の内容を充実させることができた。特におはなし会についてはボランティア養成講座初級編を開催し、受講者は令和4年度から絵本の読み聞かせボランティアとして活動できるよう養成することができた。
- ・図書館ホームページ上で様々なコンテンツを更新・新規作成したほか、メールマガジンだけでなくツイッターも積極的に配信するなど、図書館からの情報発信を充実させることができた。

課題

- ・学校図書館への貸出数が減少しているため、減少理由などを学校側に確認する必要がある。

今後の対応

- ・学校図書館への貸出数の減少について学校司書を通じて原因や事情を確認し、利用増につながる対策を検討する。

図書館協議会の意見

- ・学校と連携した児童生徒の作品展示は、図書館に興味を持ってもらったり足を運んでもらうための取組として評価できます。公民館や博物館等との連携においても、図書館の機能が発揮されており、今後も関係機関に図書館の意義をよく理解してもらいながら、更なる連携を図っていただきたい。
- ・学校図書館への貸出増の取組として、学校貸出用の閉架図書には新しい本が少ないことから、開架図書の団体貸出についても検討していただきたい。